

目的

那珂川のアユ資源を持続的に活用するためには、漁獲の動向を把握した上で適正な漁場運営を行う必要がある。そこで今年度も引き続き、那珂川におけるアユの漁獲状況に関する情報を収集した。

材料および方法

釣りによる漁獲状況 栃木県那珂川漁業協同組合連合会会員4漁協に対し、調査票150枚を前年度の賦課金納入者数の割合に応じて配布した。各漁協がそれぞれ選定した調査員に対し、2020年6月1日の釣り解禁日から11月30日までの間、釣行日の釣獲地区（本流7地区および4支流の計11区域；図1）および釣獲尾数（釣果なしも含む）の記録を依頼した。無記入の調査票は、出漁日数を0として扱った。なお、回収率は67.3%であった。

投網による漁獲状況 釣りと同様の方法で調査票50枚を配布し、漁獲重量の調査を行った（投網は7月10日から区間毎に順次解禁される）。なお、回収率は66.0%であった。

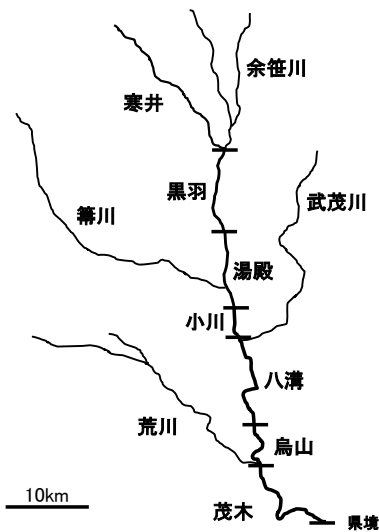


図1 那珂川における釣獲地区の区分

結果および考察

釣れ具合・獲れ具合 漁期を通じた釣れ具合は10.3尾/人/日で、平年値（1998年～2019年までの平均値）よりも0.8増加していた（図2）。また、月別の釣れ具合を比較すると、すべての月で平年値を上回る釣れ具合となった（図3）。

解禁日の釣れ具合は11.0尾/人/日で平年（9.5尾/人/

日）よりも良好であった。また、解禁日における地区別釣れ具合を比較すると、黒羽、烏山、武茂川及び荒川は平均を上回る釣れ具合であったのに対し、寒井、湯殿及び小川では平均を大きく下回る釣れ具合となった（図4）。漁期を通して見ても、前年に引き続き、地区によるばらつきが大きい結果となった（図5）。投網による獲れ具合では、漁期全体の一日の獲れ具合は一人当たり3.8kgで（図2）、前年（2.9kg/人/日）及び平年（2.8kg/人/日）よりも増加していた。

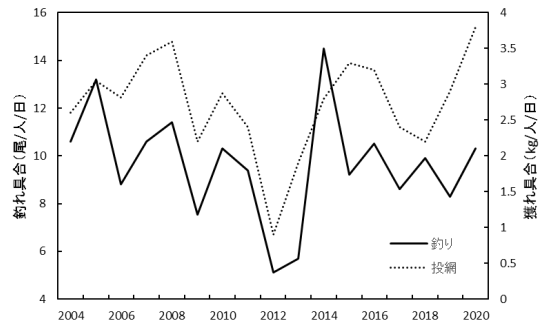


図2 釣れ具合および獲れ具合の推移

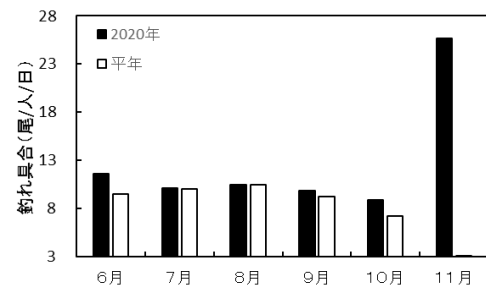


図3 釣れ具合の月別の推移

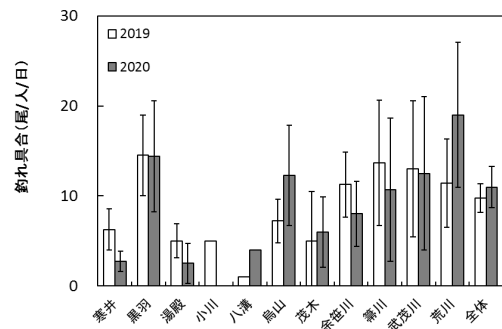


図4 地区別の釣れ具合（解禁日）

エラーバーは標準偏差を示す

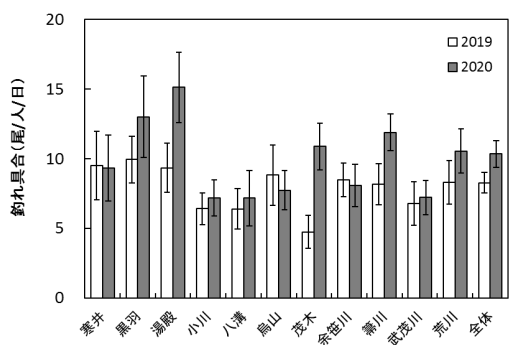


図5 地区別の釣れ具合（漁期全体）
エラーバーは標準偏差を示す

出漁日数 釣りの出漁日数は 16.8 日/人で、前年（15.4 日/人）の 109%，平年値（19.9 日/人）の 84.4% となった。一方、投網の出漁日数は 18.9 日/人で、前年（8.6 日/人）から大きく増加し、平年値（11.4 日/人）も上回った（図 6）。

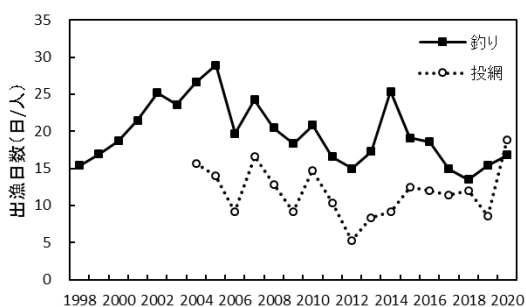


図6 釣りおよび投網の出漁日数の推移

釣獲尾数・漁獲量 釣りによる漁獲量は 123.1 t で前年（126.2 t）から減少した（図 7）。地区別では、前年と同様に黒羽地区が最も多く、黒羽、湯殿、小川、茂木及び箒川の 5 地区で前年を上回った（図 8）。

投網による漁獲量は 120.9 t で、前年（41.6 t）の 290.6% であり、2010 年以來の高水準となった（図 7）。地区別では、八溝、烏山、余笹川、箒川及び荒川では前年値を上回った（図 9）。

出漁者数 釣りの出漁者数は 15.2 万人で前年（13.9 万人）の 109.4% に微増した。また、投網の出漁者数は 3.2 万人で前年（1.7 万人）の 188.2% に増加した（図 10）。

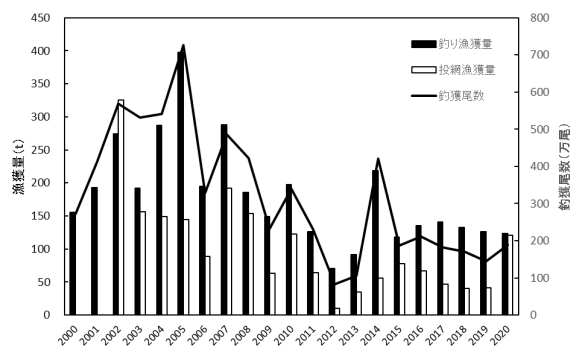


図7 釣り・投網による漁獲量および釣獲尾数の推移

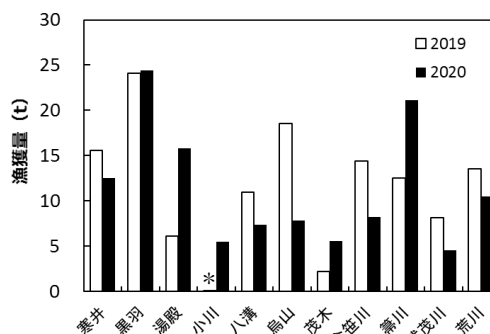


図8 地区別の漁獲量（釣り）

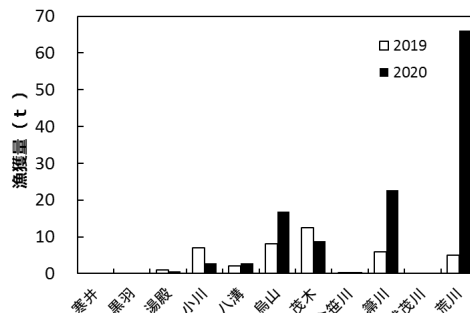


図9 地区別の漁獲量（投網）

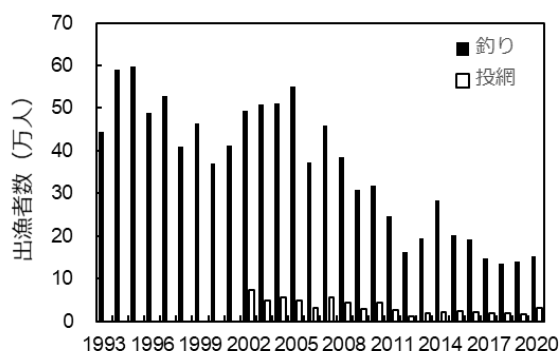


図10 釣りおよび投網出漁者数の推移

（指導環境室）